

# (小学校) 図画工作科

## 1 改訂の趣旨・要点について

- 感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。
- 生活を楽しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

## 2 目標及び図画工作科の見方・考え方について

- 他の教科等と同様、育成する資質・能力が、学力の三要素（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の視点から明確化され、それらをベースに目標が整理された。
- 育成する資質・能力の三つの柱のそれぞれに「創造」を位置付け、図画工作の学習が造形的な創造活動を目指していることが示された。

### 【目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。  
(※「知識及び技能」)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。  
(※「思考力、判断力、表現力等」)
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。  
(※「学びに向かう力、人間性等」)

### 【ポイント】

#### ○ 図画工作科の「見方・考え方」とは・・・？

「造形的な見方・考え方」であり、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。



一人一人が感性や想像力を働かせて様々なことを感じ取ったり考えたりし、自分なりに理解したり、何かをつくりだしたりするときなどに必要となるもの。材料や作品、出来事などを捉える際の「形や色など（低学年）」「形や色などの感じ（中学年）」「形や色などの造形的な特徴（高学年）」などのこと。→〔共通事項〕の「知識」へのつながり

#### ○ 生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力とは・・・？

図画工作科の学習活動（見る、さわる、つくる等）において、児童がつくりだす形や色、作品などや、家庭、地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などと豊かに関わる資質・能力のこと。これらを働かせることが、楽しく豊かな生活を創造しようとする事などにつながる。

## 3 内容についての主なポイント

- 「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕とも、三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえて構成されている。
- 「学びに向かう力、人間性等」については、教科及び学年の目標においてまとめて示している。

## 【内容構成表】

領域等	指導内容	
A表現	(1) 思考力、 判断力、 表現力等	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」
	(2) 技能	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「技能」
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「技能」
B鑑賞	(1) 思考力、 判断力、 表現力等	ア 鑑賞する活動を通して育成する「思考力、判断力」
共通事項	(1) 「A表現」 及び「B鑑賞」の 指導を通しての指導	ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」
		イ 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」

### 【ポイント】「造形遊び」とは…

- \* 児童が材料などに進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通して捉えた形や色からイメージをもち、思いのままに発想や構想を繰り返し、経験や技能などを総合的に活用してつくること。
- \* 材料や場所、空間などの特徴から造形的な活動を思い付いて活動するもの。
- \* つくる過程の中で「つくり、つくりかえ、つくる」という学びの過程を経験することであり、広く捉えれば図画工作科の学びそのものであり、学力の三要素に関わる部分であること。

### 【ポイント】「絵や立体、工作に表す」とは…

- \* 児童が感じたこと、想像したことなどのイメージから、表したいことを見つけて、好きな形や色を選んだり、表し方を考えたりしながら表すこと。
- \* 表したいことを見つけて、それに必要な材料を選んで表すもの。
- \* 思いのままに表す楽しさから、自己を見つめたり、友人に伝えたりするなど、他者や社会を意識した表現へと広がりながら、資質・能力を育成する学習。

### 【ポイント】図画工作科の「知識」とは…

- \* 形や色などの名前を覚えるような知識ではない。
- \* 児童一人一人が、自分の感覚や行為を通して理解したもの。造形的な視点である「形や色など」、「形や色などの感じ」、「形や色などの造形的な特徴」などが、活用できる「知識」として習得されたり、新たな学習の過程を経験することで更新されていくもの。

## 4 指導計画作成と内容の取扱いについての配慮事項について

- 発達の特性に応じた2年間の見通しと小学校入学前や中学校へ美術科などの学習も視野に入れた小学校6年間を見通した計画的かつ継続的な指導計画の作成。
- 「児童の思いを大切にした指導」の項目の追加。→自らつくりだす意欲を重視。

## 5 移行措置に係る留意事項等について

移行措置は平成30年4月1日から。評価については平成32年度全面実施までは現行の学習指導要領で進める。内容に関してはまだ未定。